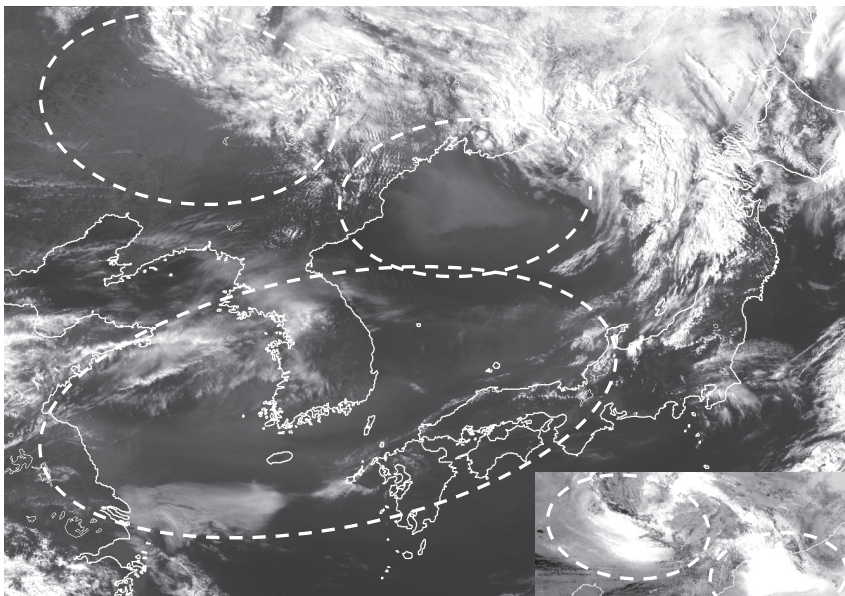


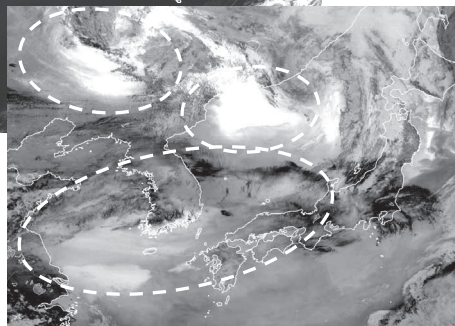


## 今月のひまわり画像—2021年3月

### 全国的に観測された黄砂



第1図 2021年3月29日15時（日本時間）の中国大陸から日本付近における可視画像及び赤外差分画像（右下図）。



2021年3月29日から31日にかけて、九州から北海道にわたる広範囲で、黄砂が観測された。

第1図は3月29日15時（日本時間）の中国大陸から日本付近における可視画像と赤外差分画像（以下、差分画像）である。両画像において、破線で囲んだ領域が黄砂を含んでいると推測される。

黄砂は、差分画像では白で表され、大気中の黄砂粒子の濃度が高いほど明るく鮮明な白となり、可視画像でも白く見える。中国大陸で巻き上げられた黄砂粒子は、日本付近に達する頃には拡散または降下して薄くなり、衛星画像では識別しにくい場合があるが、第1図の可視画像、差分画像ともに灰色～明白色の領域が東シナ海～西日本、日本海に広がっているのが確認でき、大量の黄砂粒子が運ばれてきていることがわかる。衛星画像で黄砂が確認されても、上空に浮遊しているだけで地上には影響があまり見られない場合もあ

る。今回ゴビ砂漠付近で低気圧が急激に発達し、かなり大量の砂が巻き上げられ、低気圧南象限の強い西風に乗って、日本付近へ飛来した黄砂粒子が、東シナ海にある高気圧に伴う下降流の影響で地上に達したと考えられる。

この黄砂により、29日には韓国のほぼ全土に黄砂警報が発表された（広範囲に発表されるのは6年ぶり）。また、30日午後には東京都心でも10年ぶりに黄砂が観測された。

黄砂が地上に達した場合、視程（水平方向に見通しが利く距離）が悪化し、交通に影響を及ぼすことがある。また、呼吸器や循環器に疾患のある人が黄砂を吸い込むと症状が悪化するとの報告もあり、外出時は注意が必要である。

（気象庁大気海洋部予報課 河野麻由可）